

福島第一原子力発電所事故を踏まえた 対応体制の構築について

原子力事業本部

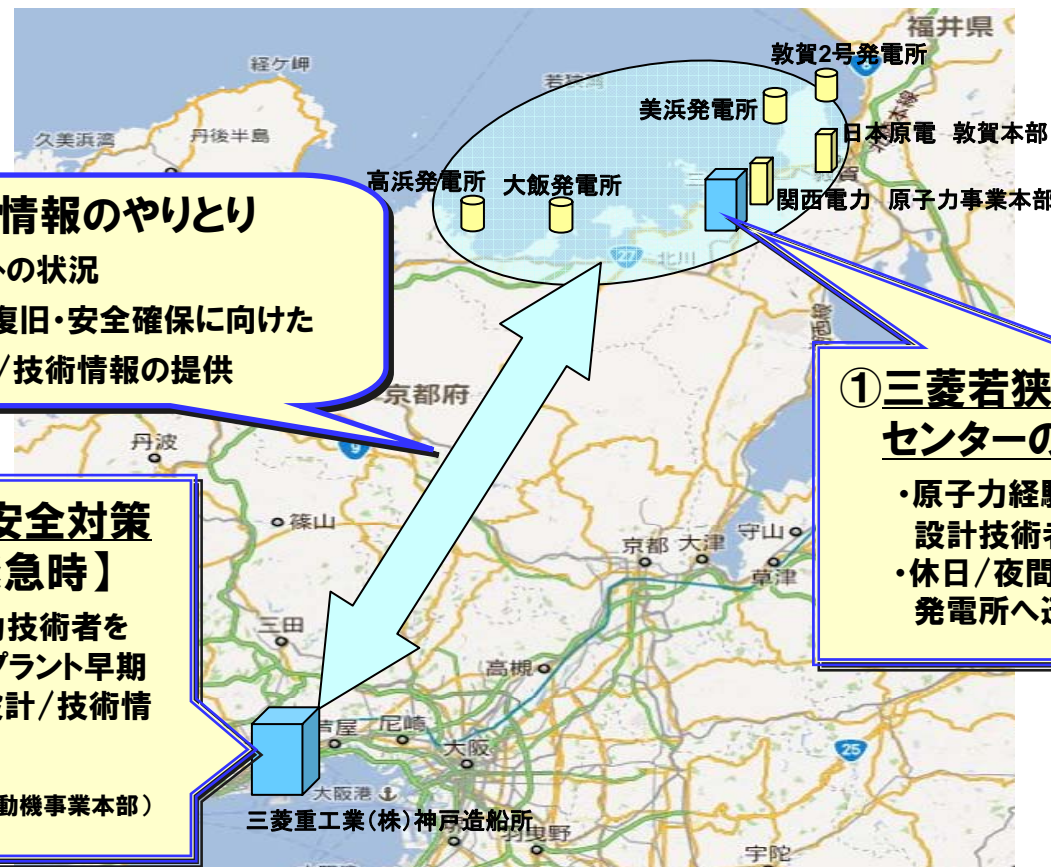
平成24年5月

 三菱重工業株式会社

◆電力支援体制の構築について

■災害発生時にプラント状況の早期把握からプラントの早期復旧・安全確保に向けた設計・技術情報を電力へ迅速に提供する技術支援を行うため、プラントメーカーとして総力を挙げて対応する体制を構築

- ①若狭地区(美浜)への三菱若狭原子力安全統括センターの設置(常時)
- ②三菱重工業(神戸)に三菱緊急時原子力安全対策センターの整備(緊急時)



情報のやりとり

- ・プラントの状況
- ・早期復旧・安全確保に向けた設計/技術情報の提供

①三菱若狭原子力安全統括センターの設置【常時】

- ・原子力経験を有し、判断できる設計技術者の常駐組織
- ・休日/夜間問わず電力本部及び発電所へ迅速に対応出来る体制

②三菱緊急時原子力安全対策センターの整備【緊急時】

- ・三菱グループ(*)の原子力技術者を集結させ、総力を結集し、プラント早期復旧安全確保に向けた、設計/技術情報を提供

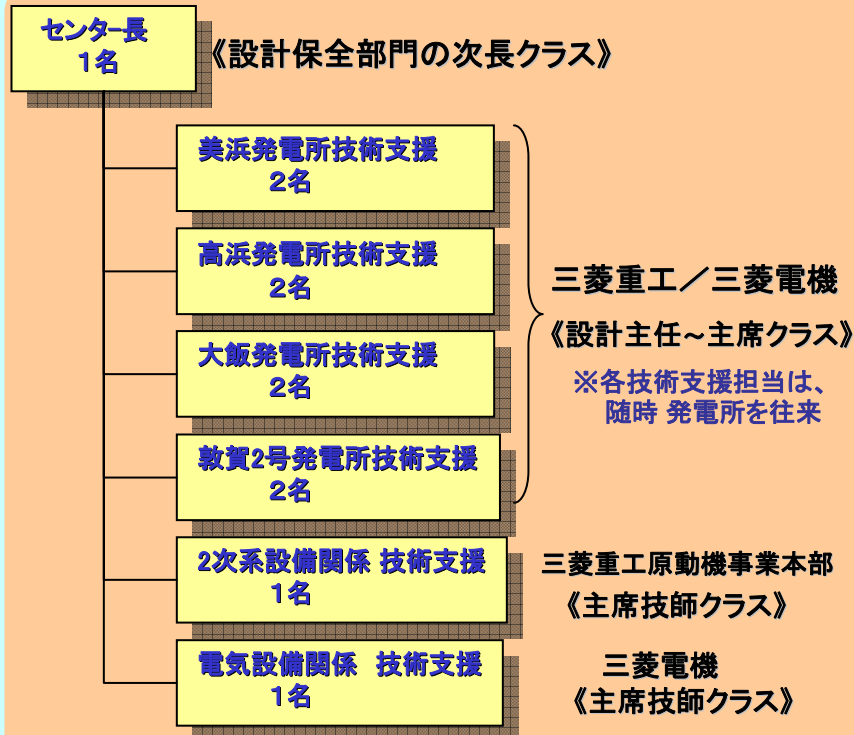
(*) 三菱重工(原子力事業本部/原動機事業本部)
三菱電機 関連会社含む

◆電力支援体制の構築について ①三菱若狭原子力安全統括センターの設置

体制

プラントメーカー設計技術者の発電所近傍への常駐組織としては、国内最大の組織

- ◆ 三菱設計技術者11名が若狭地区に常駐
- ◆ 電力本部の近隣に事務所を設置
- ◆ 休日/夜間を問わず対応出来る体制



※事務職、庶務職は除く

機能

激甚災害時

- ⇒ プラント状況の迅速な把握
- ⇒ 三菱緊急時原子力安全対策センター（神戸）との連携
- ⇒ 関連技術情報の迅速な提示／技術支援
- ⇒ 事故収束手段、復旧対策案の迅速な提示

不適合発生時

- ⇒ プラント状況の迅速な把握
- ⇒ 三菱対策本部（神戸）との連携
- ⇒ 関連技術情報の迅速な提示／技術支援
- ⇒ 不適合解決手段、対策案の迅速な提示

平常時

- ⇒ プラント安全性向上に係わる技術支援
- ⇒ 電力本部/発電所の技術窓口

◆電力支援体制の構築について ②三菱緊急時原子力安全対策センターの整備

■体制

- ・激甚災害発生時に原子力事業本部長をトップとした即決できる緊急時対応体制
- ・三菱グループの総力を結集させたプラントメーカー技術者400～500人規模の体制

■役割

- ・緊急時の原子力発電所の安全確保のためのプラントメーカーとして総力を挙げて対応する総指令本部
- ・緊急時に三菱若狭原子力安全統括センターと逐次連携をとり設計根拠や機器の詳細な情報を即座に電力へ送付すると共にプラントの状況に応じた事故収束手段、復旧対策の早急な検討・技術支援を実施



◆電力支援体制の構築について ③防災訓練時における実戦機能の確認

- 平成24年3月18日(日)に開催された「福井県防災訓練(日本原電の防災訓練)」ならびに「関西電力防災訓練」に参加し、プラントメーカー支援体制の実戦機能を確認
- 技術支援として技術者を派遣・衛星回線電話やテレビ会議による技術支援機能を確認

関西電力防災訓練対応状況



■三菱若狭原子力安全統括センター(美浜町)

- ・センター長はじめ常駐技術者がセンターへ集結するとともにセンターの発電所担当技術者が発電所へ即座に移動
- ・関西電力事故対策本部へセンター長(三菱重工)及び三菱電機技術者の2名を派遣
- ・関西電力事故対策本部/三菱緊急時原子力安全対策センター(神戸)と連携をとり、技術支援対応を実施



関西電力事故対策本部状況



関西電力事故対策本部での復旧対策議論状況

■三菱緊急時原子力安全対策センター(三菱重工神戸)

- ・原子力事業本部長を総指揮者に三菱グループ原子力技術関係の部門長他が対策センターに即座に集結
- ・プラント状況に応じた技術支援対応を実施



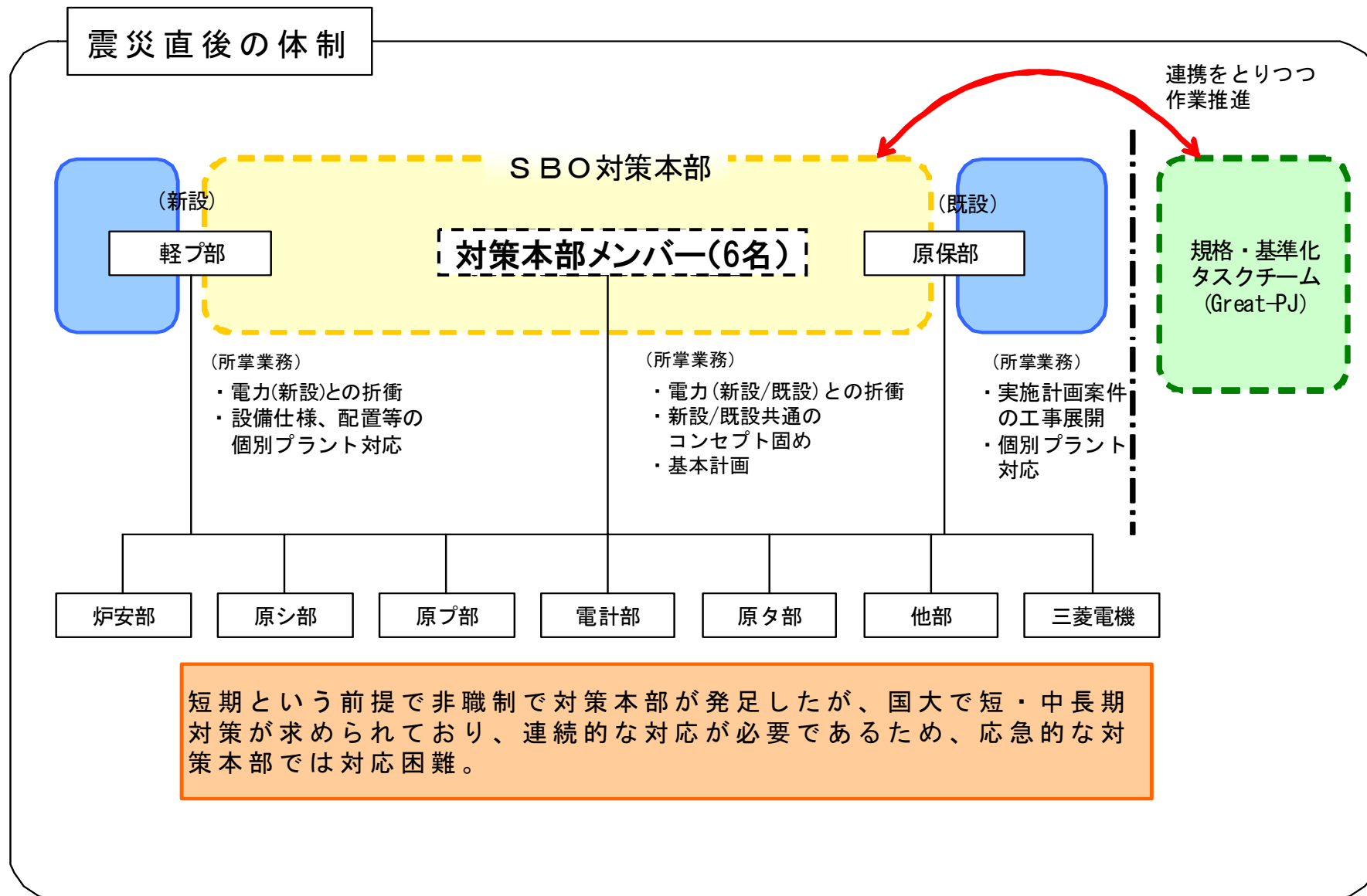
関西電力事故対策本部とのTV会議状況

連携

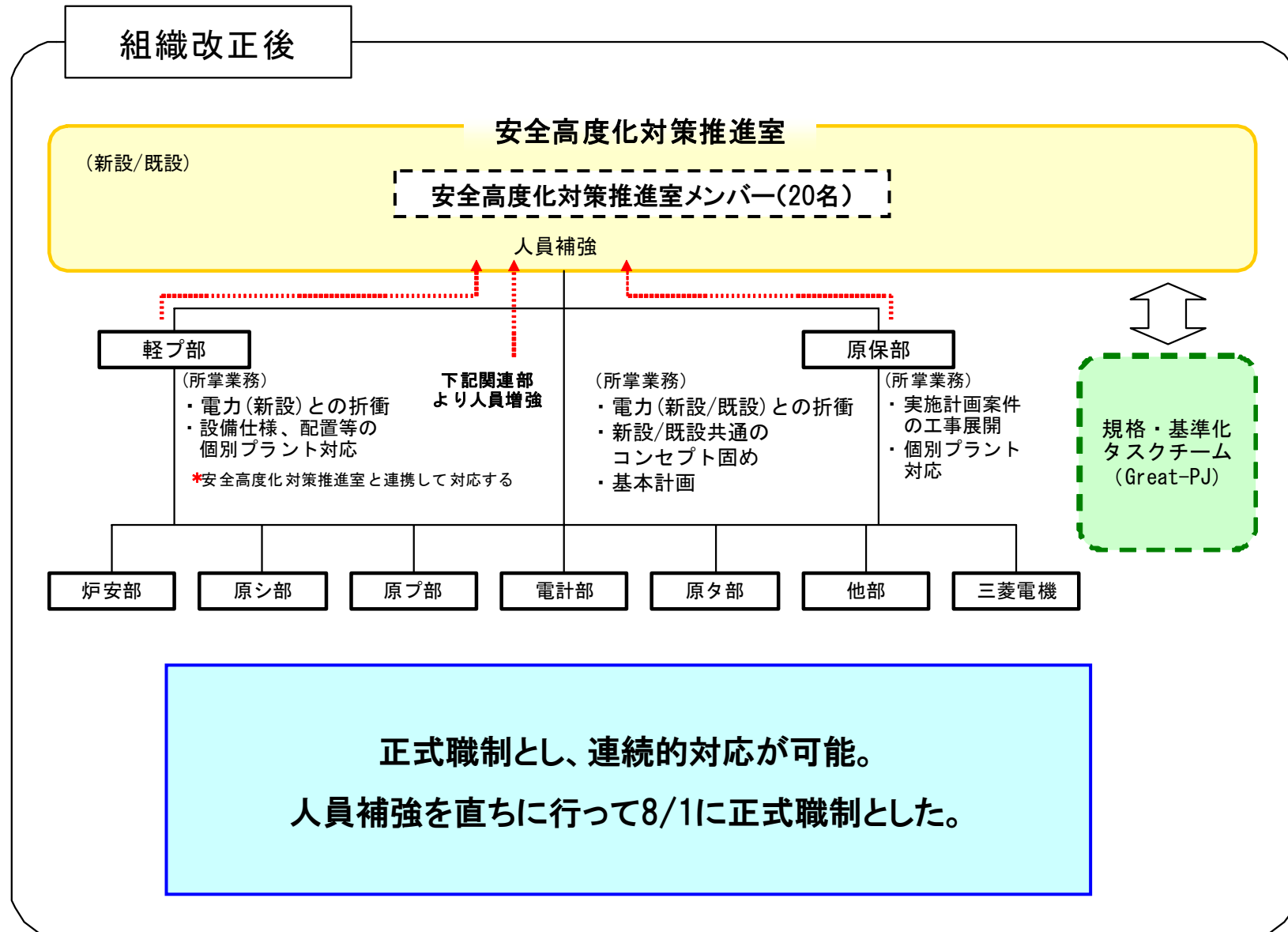
■関西電力本店へのプラントメーカー技術者派遣(大阪)

- ・三菱重工/三菱電機の保全部門次長クラス技術者2名を電力本店へ派遣
- ・三菱緊急時原子力対策センター(神戸)との連携をはかり、プラント状況に応じた技術支援対応を実施

◆安全高度化対策取組み体制(1)



◆安全高度化対策取組み体制 (2)



◆安全高度化対策取組み体制（3）

- 関係者全員が「電力の安定供給支援」という使命感、危機意識を持って対応中。
- 毎朝の定例会では、各部、各課のキーパーソンが100名程度参加し、情報共有を行いつつ対応。
- 国・県・欧米の規制等の動きも注視しながら、電力からの要請や三菱からの提案等をタイムリーに実施中。



対策本部定例会議の開催状況

◆安全高度化対策取組み体制（4）

- 短期的な対応に加え、中長期的な対応項目の増大に従い、定例会議出席者(関係者数)も増加の一途。
- ストレストテスト要求後は更に増加、現状80～100名で推移。

